

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23330066

研究課題名(和文) 西洋社会科学古典資料の書誌学的調査に基づく印刷地推定法に関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical Research on Printing Place Estimation Method Based on Bibliographical Investigation of Western Historical Social Science Literature

研究代表者

山崎 耕一 (YAMAZAKI, Koichi)

一橋大学・社会科学古典資料センター・教授

研究者番号：70134872

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,000,000円、(間接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：一橋大学社会科学古典資料センター(以下、センター)所蔵のメンガー文庫・ギールケ文庫・フランクリン文庫・左右田文庫・一般貴重書の一部のうち1500年から1800年に刊行された印刷本について、出版年、キーワード、折記号、プレスフィギュア等の記載の仕方を調査した。それを踏まえて、西洋近代の出版文化において、国・地域によって植字・組版上の特徴がどのように異なるか統計的な分析を行った。関連して、センター所蔵資料の重複タイトルや異版・異刷の所蔵状況の調査も行った。また、アメリカ合衆国議会図書館で使用されている貴重書の目録規則について研究を行った。

研究成果の概要(英文)：Based on materials printed between 1500-1800 of Menger, Gierke, Franklin and Soda Libraries and General Collection held by the Center for Historical Social Science Literature, Hitotsubashi University (thereafter, the Center), we conducted research on ways of appearing some bibliographical features including publication year, catch word, signature and press figure etc. in the publishing culture of western modernity. With this data we made a statistical analysis on dependance of compositorial and typesetting features of western printed books on the place and country of publication. In connection, we checked up how many doubled identical titles or edition and impression variants of the same title the Center holds. We also analyzed the descriptive cataloging rule for rare materials adopted in U.S. Library of Congress.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済学説・経済思想

キーワード：西洋古典 書誌学 経済学説史 思想史 出版史

1. 研究開始当初の背景

本研究は、社会科学古典資料センターの所蔵資料のうち1530年から1800年に出版された資料について、植字・組版上の特徴と出版事項に記載されている印刷事項を悉皆的に調査し、統計的な分析によって、両者の関係を明らかにしようとするものであった。

植字・組版上の特徴と印刷地との間に有意な相関関係があるという主張は、1966年のリチャード・A・セイスの研究“Compositorial Practices and the Localization of Printed Books, 1530-1800,” *Library*, 6th ser., 5(4)を嚆矢とする。セイスは、標題紙における出版年の表記の仕方や、ページの並び順を誤らないために印刷業者が利用するいわゆる折記号がどのように記載されているかといったいくつかの特徴について、各国・地域ごとの慣行があると述べたのだ。以降、思想史や書誌学の研究者を中心に検証が行われてきており、また、C・J・ミッチェルやR・A・リーによって、セイスが取り上げなかった本文部分の植字慣行に注目して印刷地の推定を行う方法も提案されている。国内では、連携研究者である武者小路信和によってセイスの研究が紹介されており(『西洋古版本印刷地の見分け方ガイド』、『経済資料研究』34-36、2004-6年)、それをもとにして印刷地を推定するプログラムが開発されたことがある(戸田慎一「エキスパート・システムによる出版地の鑑定」、『図書館学会年報』32(1)、1986年)。しかし、西洋社会科学古版本についてセイスが行ったのをはるかに上回る規模で調査が実際に計画されたのは管見の限り初めてである。

現在の本の場合、表紙、標題紙、標題紙裏、奥付などに記載された出版事項を基本的に信頼し、それを拠り所にして目録をとるが、西洋古版本の場合、標題紙に記載された事項が必ずしも信頼できるとは限らない。匿名書、海賊版、秘密出版物など、政治的・宗教的・私的な理由から正しい事項を秘匿したり、偽りの事項を記したりしている本が数多くあるのである。こうした正しい出版地を匿した本の実際の出版地・印刷地を知ることは、著者についての伝記的研究に役立つばかりか、その本文の信頼性にもかかわるものであるから、思想史・学説史・書誌学・出版史にとって基礎的な意味をもっている。

実際の出版地・印刷地を知るには、著者や出版社の書簡や印刷所の記録といった歴史資料によって状況証拠を得たり、使用されている活字やオーナメントのような物的証拠を拠り所にして印刷所を特定するといった方法がある。しかし、専門的な知識と経験が必要であり、また、1冊の本について調べるためだけにでも多くの時間がかかる。もっと簡便なのは、世界書誌・各国書誌や、各種の匿名事典を利用したり、偽りの出版地・印刷地を対象にした専門書誌を援用するといっ

た方法である。しかし、すべての本が載っているわけではないし、書誌事項の記述が簡略なため、手元にある実際の本と書誌の記述対象との同定が難しいという欠点がある。

セイスの方法は、印刷地に関して誰でも比較的容易に見分ける方法として提案されたものである。しかし、調査対象となった資料の数が十分に多くなく、分野にも偏りがあるため、その信頼性について再検討が必要である。

本研究は、包括的な蔵書研究の一環として、セイス以降の諸研究を踏まえて、西洋社会科学古版本の印刷地推定法について考察するものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、西洋社会科学古版本の植字・組版上の特徴と印刷地とに関する統計的な分析をもとにして、偽版・匿名本等、印刷地が記載されていないかまたは正しい印刷地が秘匿されている資料の印刷地の推定手法を提案することである。

西洋社会科学古版本群についての同程度に大規模な研究は国内外で例を見ない。一橋大学社会科学古典資料センターが所蔵する資料群を組織的に調査することは、思想史・学説史・書誌学・出版史の各分野に貢献する基礎的な研究となるであろう。

3. 研究の方法

(1)本プロジェクトは大きく分けて二つのフェーズに分かれる。第一のフェーズはセンター所蔵資料一冊ずつの植字・組版上の特徴の調査であり、これによって一種のデータベースが作成された。第二のフェーズではこのデータベースを活用して統計的な分析が行われた。

第一のフェーズにおける調査項目は、リチャード・A・セイスが挙げたものを中心に、C・J・ミッチェル、R・A・リーによるものを加え、さらに調査の進展とともに重要性が明らかになったいくつかの項目を含めて、最終的には以下に列挙するように、45項目にのぼった。

1. 資料の請求記号
2. 登録番号
3. 出版年
4. 出版年の表記法
5. 口絵頁の有無
6. 刻版標題紙か否か
7. 多色刷り標題紙か否か
8. 表示されている出版地・出版者情報
9. 出版地・出版者表示の情報源
10. 出版地・出版者表記の特徴
11. 表示されている印刷地・印刷者情報
12. 印刷地・印刷者表記の情報源
13. 印刷地・印刷者表記の特徴
14. 特認表示の有無

15. 標題紙の囲み飾りの有無
16. 標題紙オーナメント（出版者マークを含む）の有無
17. 記載されている前付頁の最終折記号
18. 前付頁の折記号の特徴
19. 版型
20. 大きさ（高さ）
21. 折丁ごとの紙葉数
22. 本文の折記号の特徴
23. 折記号に使われる数字
24. 折記号としてローマ数字が使われているとき、2の表記が ii となるか ij となるか
25. 折記号としてローマ数字が使われているとき、4の表記が iv となるか iii となるか
26. 折記号が何葉目まで印刷されているか
27. 折記号がどこに配置されているか
28. 註記に対する折記号の配置
29. 本文の最初の折記号が B になっているか
30. 折記号として U を使うか V を使うか
31. 折記号 2 巡目の S をどのように表記するか
32. 折記号 2 巡目の V をどのように表記するか
33. キッチワードの特徴
34. 本文のページ付けの仕方
35. プレス・フィギュアの有無
36. パラグラフ・キャピタリゼーションの有無
37. 本文でイニシャルまたはファクトータムを使用しているか
38. ヘッドピースの有無
39. テイルピースの有無
40. 引用符の形式
41. 標題紙の罫線枠以外の罫線の有無
42. 章初語のキャピタライズ
43. 章の初字を大きくしているか
44. 巻末の表示方法
45. 標題紙のイニシャル

研究分担者の福島知己は、上記の調査項目を共同で入力する簡便な方法として、マイクロソフト社のデータベースソフトであるアクセスを活用して、以下のような入力フォームを作成した。



アクセスによる入力の利点は、エクセル形

式での出力が可能であるために、後述の統計的分析が容易であることである。

(2) 実際の調査は、大学院生・PDの研究協力を募って、平成23年度から平成25年度まで行われた。研究協力者には、まず今回の調査の目的と内容について説明したうえで、今回の調査対象資料が貴重書であることを踏まえて、資料取り扱い上の注意点について1時間程度レクチャーを受けてもらった。そのうえで、手分けして調査し、上記のフォームに従って入力してもらった。最終年度である平成25年度にそれまでの調査を検証して処理を加え、必要に応じて再調査を行った。

(3) 上記の第一フェーズを通じて作成されたデータベースをもとに、第二フェーズにおいてデータ処理を行い、統計学的な観測を行った。

4. 研究成果

(1) 上記の方法に従い、センターが所蔵するメンガー文庫、ギールケ文庫、左右田文庫、フランクリン文庫、その他貴重書の一部について、総計35,258点の資料の調査を行った。このうち、ページ数が8ページに満たないもの、1801年以降に出版されたもの、出版年不明のもの、印刷地も出版地も不明のもの、重複図書（後述）を除くと、印刷地が明示されているものの総数は2,454件、出版地が明示されているものの総数は6,834件である。印刷地ごとの件数は以下の通り。

フランス（パリとリヨンを除く）	137
パリ	443
リヨン	11
ベルギー	49
スイス（ジュネーヴとバーゼルを除く）	16
ジュネーヴ	19
バーゼル	30
イタリア	55
オランダ	112
ドイツおよびオーストリア	340
イギリスおよびアイルランド	875
アメリカ	63
スペイン	5
ストラスブル（ストラスブルク）	6
プレスラウ（ヴロツワフ）	1
ケーニヒスベルク	2
プラハ	2
その他	288
計	2,454

また出版地ごとの件数は以下の通りである。

フランス（パリとリヨンを除く）	177
パリ	1,165
リヨン	61
ベルギー	130
スイス（ジュネーヴとバーゼルを除く）	87

ジュネーブ	75
バーゼル	61
イタリア	259
オランダ	598
ドイツおよびオーストリア	1,644
イギリスおよびアイルランド	1,959
アメリカ	56
スペイン	56
ロシア	4
ストラスブール(ストラスブルク)	39
リガ	29
プレスラウ(ヴロツワフ)	19
ケーニヒスブルク	35
デンマーク	15
ブラハ	6
その他	359
計	6,834

以下では印刷地が明示されている資料をもとにして、いくつかの特徴的な例について説明を行う。

出版年の表記法について

西洋古版本には標題紙の下部に出版年が記載されていることが多いが、出版年の表記の仕方にはアラビア数字で書かれている場合やローマ数字で書かれている場合などさまざまである。ローマ数字で書かれている場合でも、千の桁や百の桁をピリオドで区切る、カンマで区切る、スペースで区切る、区切りを入れない、千を表すMを大文字で、残りをスモール・キャピタル(小ぶりの大文字)で組む、イタリック体で組む、さらにローマ数字の変形を用いるなどさまざまなパターンがある。今回の調査によれば、パリで印刷された(と表示されている)出版物計443点のうちで、出版年が千の桁や百の桁がピリオドで区切られたローマ数字(M.DC.LII というように)で記載されたものが最も多く、202点あった。その割合は $202/443 = 0.46$ となり、95%の信頼係数における信頼区間は[0.41, 0.50]となる(以下同様に、割合と95%の信頼区間を掲げる)。統計学的には、この信頼区間が狭いほど、計測された割合の信頼度は高くなると解釈できる。基本的には、ある程度の観測数(合計)があれば、割合を基準に考えてよい。ところで、印刷された地域によって好まれる出版年の表記法に差があるようであり、ドイツまたはオーストリアで印刷された出版物計340点のうちで最大のものはアラビア数字による出版年記載(1652 というように)であり計150点(0.44, [0.39, 0.49])であった。イギリスまたはアイルランドで印刷された出版物875点のうちで最大のものもまたアラビア数字による出版年記載であり440点(0.50, [0.47, 0.54])であった。イタリアで印刷された出版物は最も独特であり、55件中最大のものも区切られていないローマ数字(MDCLII というように)で記載されたもの22点であった(0.40, [0.27, 0.53])であった。

キャッチワードについて

キャッチワードとは、版面のディレクション・ライン(指示語の行)の右端に印刷された次のページの出だしの言葉を指す。パリで印刷された出版物443点のうち309点では折丁ごとに一度だけキャッチワードが振られていた(0.70, [0.65, 0.74])が、キャッチワードが記されていないものも124点(0.28, [0.24, 0.32])に上った。したがってほとんどの場合はこのいずれかということになる。これに対して、ドイツまたはオーストリアで印刷された出版物340点のうち304点ではキャッチワードが毎ページに記されており(0.89, [0.86, 0.93])、折丁ごとに一度だけキャッチワードを記すのは23点(0.07, [0.04, 0.09])に過ぎなかった。さらにキャッチワードを振らないのは9点(0.03, [0.01, 0.04])に過ぎなかった。イギリスまたはアイルランドで印刷された出版物875点についても779点でキャッチワードが毎ページに記されていた(0.89, [0.87, 0.91])。キャッチワードを振らないのは62点(0.07, [0.05, 0.09])に過ぎなかった。つまりキャッチワードの記載の仕方については、出版年の表記法と同様、パリの出版物とドイツ、オーストリア、イギリス、アイルランドの出版物のあいだにかなりはっきりした相違が見られる。

折記号を何葉目まで印刷するか

折記号とは、折丁を綴じる順序を製本者が間違えないよう紙葉につけられた記号である。一冊の本はいくつかの紙葉を重ねてひとまとめに折り畳んだもの(折丁と呼ばれる)をなんらかの仕方で束ねて綴じることによってできあがっているが、折記号は通常、各折丁のはじめのいくつかの紙葉の表側(本の右ページ)の下部につけられている。ひとつの折丁を構成する紙葉数は判型によって様々であるが、たとえば四折版は一般に4葉(8ページ)からなる。ひとつの折丁において最初の数枚の紙葉の順番が確定すれば、残りの順番も自動的に決まるため、理論的にはすべての紙葉に折記号を明示する必要はないが、実際には折記号が何葉目まで印刷されているかは書物によって異なる。パリで印刷された四折版出版物76点のうち4点(0.05, [0.00, 0.10])では1葉目までしか折記号が記載されておらず、45点(0.59, [0.48, 0.70])では2葉目まで、22点(0.29, [0.19, 0.39])では3葉目まで、4点(0.05, [0.00, 0.10])では4葉目まで記載されていた。これに対して、イギリスまたはアイルランドで印刷された四折版出版物309点のうち最も多く見られたのは2葉目までしか折記号が記載されていないもの(234点、0.76, [0.71, 0.81])であり、以下3葉目までしか記載されていないもの(41点、0.13, [0.09, 0.17])、1葉目までしか印刷されていないもの(23点、0.07, [0.05, 0.10])と続く。一方、ドイツまたはオーストリアで印刷された四折版出版物169点のうち折記号が1葉目または2葉

目までしか記載されていないのはそれぞれ 1 点(0.01, [-0.01, 0.02])、4 点(0.02, [0.00, 0.05])にすぎず、161 点(0.95, [0.92, 0.98]) が 3 葉目まで記載していた。3 点(0.02, [0.00, 0.04]) では 4 葉目まで記載していた。

本文の最初の折記号として B を用いるか一般に折記号に用いられる記号として、折丁ごとにアルファベットを ABC 順に用いることが多いが、一部の地域では本文の折記号を B から始める慣行が見られる。今回の調査では、ごく一部の例外を除いて、本文の最初の折記号として B が用いられていたのは、件数の多い順に、イギリスまたはアイルランド 875 件中 322 件(0.37, [0.34, 0.40]、アメリカ 63 件中 26 件(0.41, [0.29, 0.53])、パーゼル 30 件中 11 件(0.37, [0.19, 0.54])であった。パーゼルで用いられている例は想定外であったが、これはいずれも Tourneisen から出版された英語書籍であった。

プレス・フィギュアについて

プレス・フィギュアとは、通常裏ページの版面のディレクション・ラインに印刷された一見無意味な数字や記号、文字などで、工場のなかでどの印刷者がその部分を担当したかを証明するために用いられたとされる。今回の調査の範囲ではプレス・フィギュアが発見されたほとんどはイギリスまたはアイルランドで印刷された出版物であったが、この地域で印刷された出版物 875 点のうちプレス・フィギュアが見いだされたのは 214 点(0.24, [0.22, 0.27])であった。プレス・フィギュアについては十分に注意して観察しないと見誤ることが多いため、この数字は低く見積もられている可能性がある。

上記の諸点について、本調査のベースにしたセイスの研究と比較すると、後者がおおまかに言って首肯できるものであることがわかる。植字・組版上の特徴について地域差が大きいことが理解できるばかりか、これらの特徴をもとに印刷地の推定が可能であることが予感される。しかし、統計的観測を踏まえた精緻化が必要となる。そこで、上記を含めたさらに包括的な調査結果を作成し、センターで発行している年報に報告する予定である。

(2) 今回の調査の主目的である植字・組版上の特徴をもとにした印刷地の推定法の開発にかぎらず、本調査で収集されたデータは書誌学、歴史学、学説史研究等の観点からする多様な利用が可能である。たとえば書誌学上、時代の相違による判型の違いについて、一般に時代が下がるに従って判型が小さくなることが指摘されているが、センター所蔵資料をもとに作成した下の表を見ると、若干のニュアンスが加えられる。

年	総数	二折版	四折版	八折版	それ以下
1501 ~ 1550	38	6 (16%)	10 (26%)	22 (58%)	0 (0%)

1551 ~ 1600	238	36 (15%)	64 (27%)	129 (54%)	9 (4%)
1601 ~ 1650	542	45 (8%)	281 (52%)	107 (20%)	109 (20%)
1651 ~ 1700	754	106 (14%)	269 (36%)	199 (26%)	173 (23%)
1701 ~ 1750	1267	138 (11%)	378 (30%)	536 (42%)	215 (17%)
1751 ~ 1800	4451	87 (2%)	609 (14%)	3033 (68%)	722 (15%)

すなわち、16 世紀を通じて八折版が半数以上を占めており、17 世紀前半に四折版が増加した後で再び小型化が進んでいくのである。

上記は今回作製したデータベースにもとづく調査の一例に過ぎず、今後さまざまな研究に利用していく予定である。

(3) 西洋古版本においては、同年に出版された同一タイトルであっても、異版・異刷や「稼働中の印刷機を止めて行った誤植訂正」(いわゆる stop-press-correction) が頻繁に見いだされる。これらには同一版元による印刷の過程で生成されたものが多いが、異なる印刷者によって同一タイトルが印刷される場合もあるし、それが海賊版等の場合もある。本研究の目的は組版上の特徴から印刷地の違いを析出することであるから、異版の識別は非常に重要であった。実際、調査対象であるセンター所蔵資料には同年に出版された同一タイトルの重複(以下では重複図書と呼ぶ)が数多く含まれていた。研究目的に照らせば、これらの重複図書が単に製本の違いや発行(版元が変わったなどの理由で同一の本文に対して異なる標題紙をつける場合等)の違いである場合には重複して調査する必要はないが、印刷者が違ったり印刷時期が違う場合には別途調査すべきであった。このため、センターが所蔵している重複図書を可能なかぎり網羅的に調査し、それぞれがどのような意味で重複しているのかを明らかにした。これはすでに述べたとおり、統計的調査の厳密性のためにおこなったことであるが、副次的にここから以下の洞察を得ることができた。

第一に、大学図書館で現在広く使われている目録規則である国立情報学研究所が統括する目録所在情報サービス NACSIS-CAT のコーディング・マニュアルでは出版を単位として書誌が作成されるため、このような印刷者に注目した研究とはしばしば切り分けが異なること。第二に、印刷者の違いにとどまらず、異版・異刷・別発行等さまざまなケースが想定されるのであるから、古版本においては同年に同一出版者が刊行した同一タイトルだからといってどれでも同じはずなどと速断してはならず、内容を仔細に検討すべき

であること。それにもかかわらず、第三に、NACSIS-CAT等の総合目録においては、西洋古版本であっても詳細な書誌記述がしばしば欠落しているため、こうした異版・異刷・別発行等について見過ごされていることが多いということである。福島知己は上記の諸点を踏まえて、ケース・スタディとして、18世紀に出版されたジャック・ネケール、スピノザ、イマニュエル・カントの著作の異刷についてセンター所蔵資料をもとに調査し、論文を公表した。

(4) 上記と関連して、福島知己と、同じく研究分担者の床井啓太郎は、アメリカ合衆国議会図書館が貴重書の目録規則として2007年に公表した Descriptive Cataloging of Rare Materials (Books) (以下では DCRM(B)) および、現行の英米目録規則第2版 (AACR2) の後継規則として米国、英国、カナダ、オーストラリアの図書館協会、米国議会図書館および英国図書館が共同参画して2010年に制定された国際目録規則 Resource Description and Access (以下では RDA) について調査を行った。DCRM(B)は RDA 制定以前に制定されたため内容を同列に論じることができないが、これによって、西洋古版本の書誌記述にとって有益な目録規則がどのようなものかについて一定の洞察を得た。その成果の一部は福島と床井が講師を務めた一橋大学社会科学古典資料センター主催の西洋社会科学古典資料講習会において受講者に伝えることが出来た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7件)

福島 知己、1775年に出版されたネケール『立法と穀物取引について』の諸版について、一橋大学社会科学古典資料センター年報、査読無、34号、2014、61-72
<http://hdl.handle.net/10086/26556>

福島 知己、左右田文庫について少々、一橋大学社会科学古典資料センター年報、査読無、34号、2014、73-85
<http://hdl.handle.net/10086/26554>

福島 知己、共和暦をめぐって、一橋大学社会科学古典資料センター年報、査読無、33号、2013、24-45
<http://hdl.handle.net/10086/25577>

床井 啓太郎、貴重資料の保存環境整備について、一橋大学社会科学古典資料センター年報、査読無、32号、2012、14-19
<http://hdl.handle.net/10086/22893>

床井 啓太郎、西洋古典資料の保存と修復、専門図書館、査読無、255号、2012、71-76
<http://hdl.handle.net/10086/23469>

Tomomi Fukushima, "L'économie politique selon Charles Fourier :

économie de l'abondance et théorie de l'exception," *Cahiers Charles Fourier*, 査読有, no. 22, 2011, 35-55

福島 知己、パスポート、不安の肖像、一橋大学社会科学古典資料センター CHSSL EXPOSITION SERIES、査読無、1号、2011、1-9

〔図書〕(計 2件)

山崎 耕一(編著)、松浦 義弘(編著)、平正人、早川理穂、山中聡、松島明男、竹中幸史、高橋暁生、三谷博、山川出版社、フランス革命史の現在、2013、276(i-iv,231-252)

マリア=ベトレム・カステラ=イ=プジョルス、山崎 耕一(訳)、一橋大学社会科学古典資料センター、見えざるフランス革命 通信の統制から見た法と秩序(フランス、1789年-1795年)、2012、50
<http://hdl.handle.net/10086/25332>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山崎 耕一 (YAMAZAKI, Koichi)
一橋大学・社会科学古典資料センター・教授
研究者番号：70134872

(2) 研究分担者

床井 啓太郎 (TOKOI, Keitaro)
一橋大学・社会科学古典資料センター・助手
研究者番号：20508650

福島 知己 (FUKUSHIMA, Tomomi)

一橋大学・社会科学古典資料センター・助手
研究者番号：30377064

(3) 連携研究者

武者小路 信和 (MUSHAKOUJI, Nobukazu)
大東文化大学・文学部・准教授
研究者番号：80157718

黒住 英司 (KUROZUMI, Eiji)

一橋大学大学院・経済学研究科・教授
研究者番号：00332643